デジタルアーカイブ学会　第3回研究大会

A 12

民族誌資料のデジタルアーカイブ化にかかる諸問題

伊藤敦規
国立民族学博物館
ito@minpaku.ac.jp

民族学博物館

博物館:
美術館、動･植物園、自然史、科学技術、
考古学、歴史、民俗、民族学(民族誌学)

民族学博物館:
世界の民族集団の生活や文化に関する民族誌資料を介在させたさまざまな博物館活動を通して、異文化理解と多文化共生の考え方を普及する文化施設

博物館活動:
民族誌資料の収集、整理･分類、保存･管理、修復、研究、展示、上映、アウトリーチ活動等

大英博物館

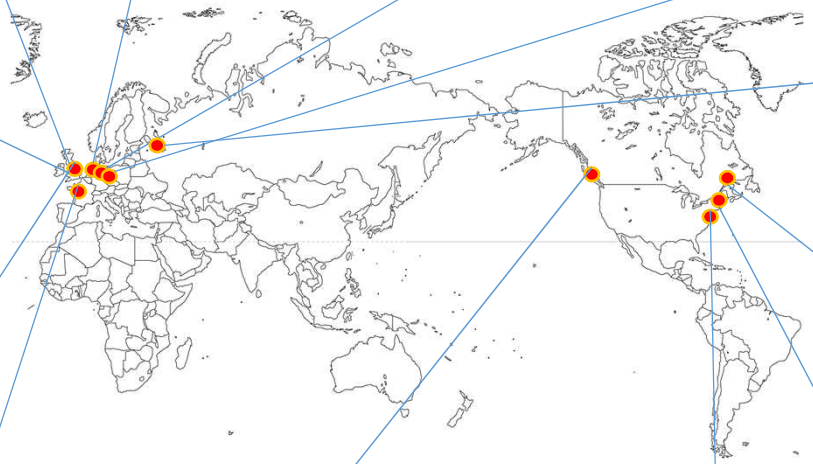
オランダ国立民族学博物館

ベルリン民族学博物館

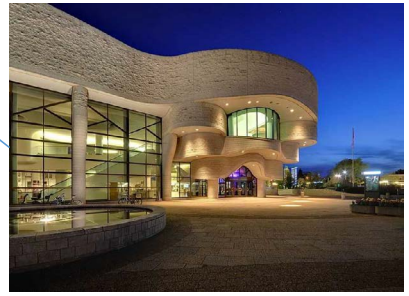
世界博物館

オックスフォード大学附属
ピットリバース博物館

ロシア民族誌博物館



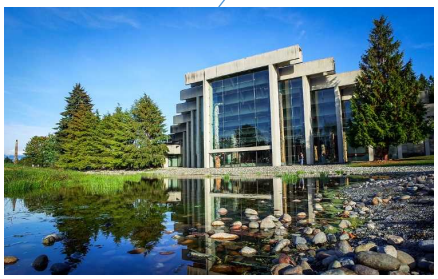
カナダ歴史博物館



ケンブリッジ大学附属
考古学・人類学博物館

ケ・ブランリ美術館

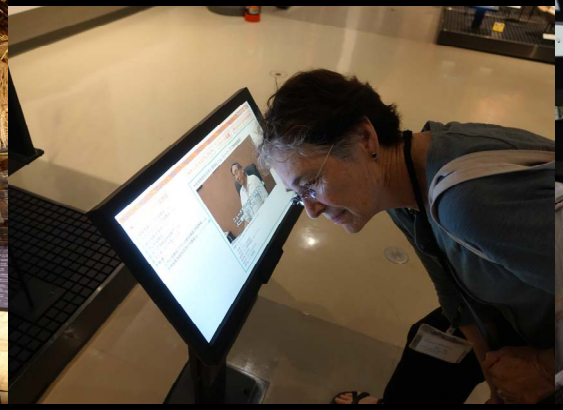
ブリティッシュコロンビア大学附属
人類学博物館



国立アメリカンインディアン
博物館

アメリカ自然史博物館

https://mainichi.jp/graphs/20180815/hpj/00m/100/001000g/1



民族誌資料の特徴

主な収蔵品、、、
「諸民族の生活のなかからうみだされ使用されてきた、日常的な用具類」（梅棹忠夫1987：158）

≒民具
民藝運動：民具（日常的な暮らしの中で使われてきた手仕事の日用品）に「用の美」を見出し活用する大正期に始まった運動

西洋での美術館と博物館の誕生・分化の歴史：
民族社会は完結し、閉じた、変化のない社会という考え方が蔓延。
美術館が収集する天才による作品に見いだされる個人の独創性は「伝統」を乱すものとして排除されてきた（吉田憲司1999：168）

民藝運動の民具観が民族誌資料の情報管理にも応用されてしまった（小谷凱宣2003）。

実際に民族学博物館では、制作者から直接購入しない収集を行ったり、来歴不明な状態でも寄贈提案を受け入れることもある。

民族誌資料の特徴

世界民族資料目録 P

採集者	採集年月日	採集番号	登録番号	廊入番号 整理番号
岡田	44年 3月23日	155		155

採集地：北米 国 南西部 地方 Hopi

名称：（日本名）神像 （現地名）Kachina 語

価格・入手方法：New York で購入

〔記事〕用途

使用法

形態

材質 木

その他 実際に使われていたもの。

美術館の「作品」:

作者、制作年代、カタログレゾネを参照

博物館の民族誌資料:

民族名、収集年、民族誌を参照

↓

民族誌資料の地域的偏差・時間的変遷の遡及が極めて困難（小谷凱宣2003:36）

↓

・制作者の遡及が極めて困難な資料群

・利用許諾の取得が極めて困難な資料群

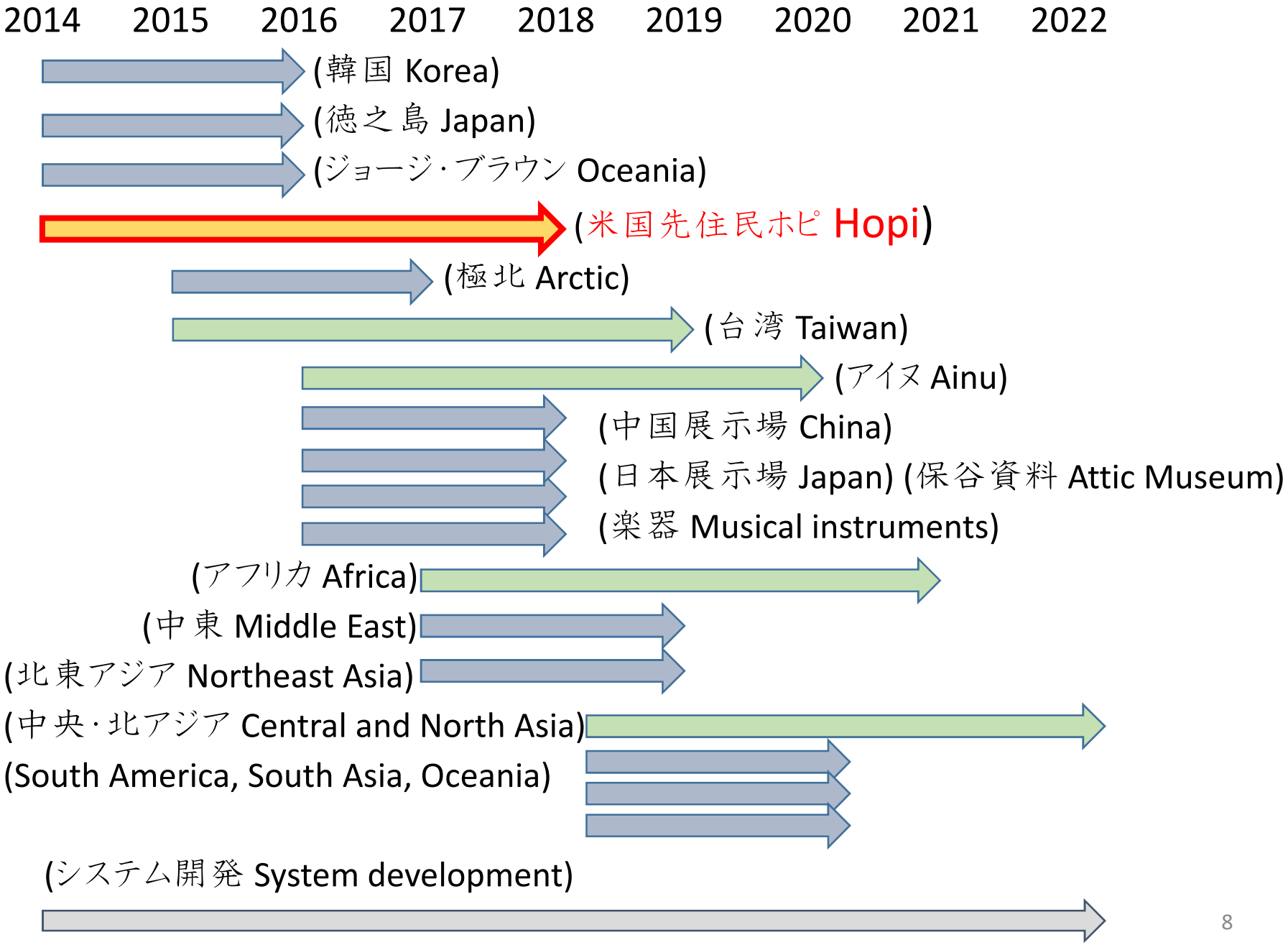
※デジタルアーカイブ化を阻害する因子

「フォーラムとしての博物館」という思想の展開

「展示する側」「展示される側」「展示を観る側」
の3者が交流し、相互に意見交換できる場（Cameron 1971; 吉田1994）

「フォーラムとしての博物館」の思想を、
僅かな情報しか記録されなかった民族誌資料の情報の追加収集や、
著作物としての民族誌資料の利用許諾取得に向けた著作権者探しに、
応用・展開できないか？

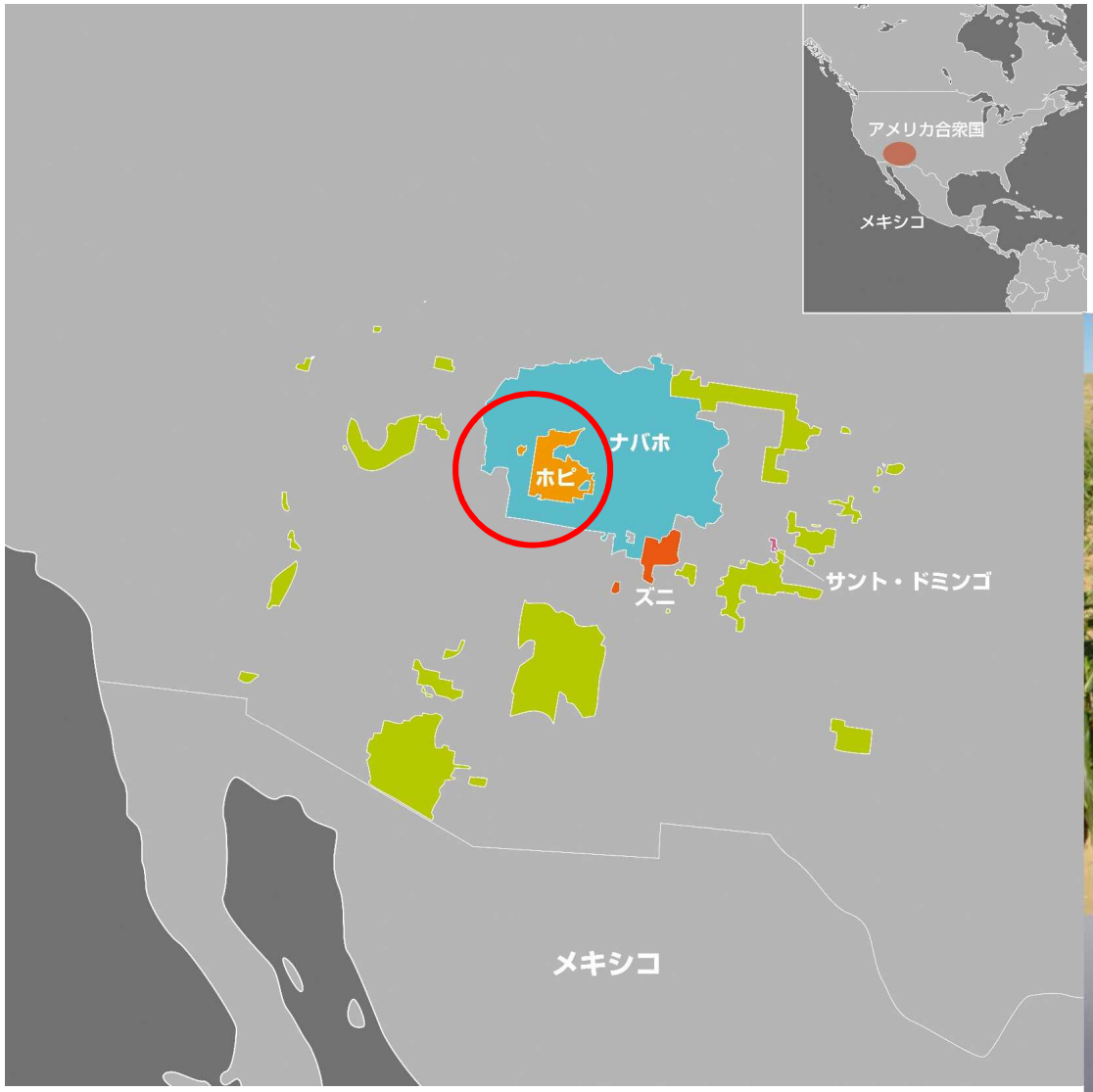
国立民族学博物館のフォーラム型情報ミュージアム Info-Forum Museum Project



ソースコミュニティに協力を仰いで「再会」を実現

ソースコミュニティ（Source Community）
資料の制作者、使用者、その子孫からなる人々
（資料の出所（Source）という意味合いを担う人々）

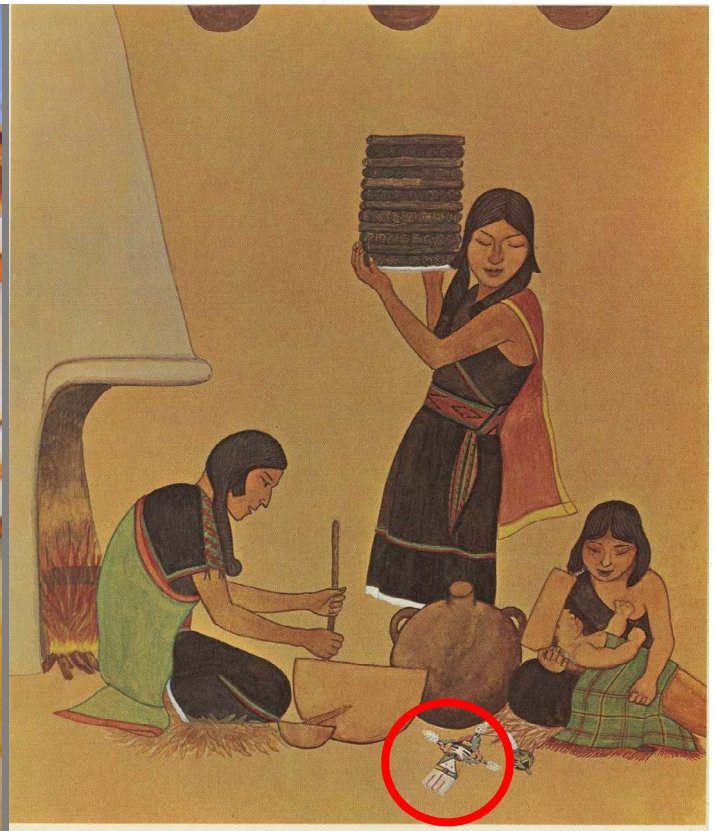
「再会」（Reconnection）
かつて収集された民族誌資料をソースコミュニティの人びとに熟覧してもらうこと


アメリカ合衆国
メキシコ
ナバホ
ホピ
ズニ
サント・ドミンゴ
メキシコ

Permission by Hopi Cultural Preservation Office, Hopi Tribe. (License No. 04-009)

Permission by Hopi Cultural Preservation Office, Hopi Tribe. (License No. 10-006)

Fred Kabotie *Home Dance*



WOMEN MAKING PIKI *Watercolor, circa 1920*

https://www.ft.com/content/55f966a4-2cfd-11e3-8281-00144feab7de#axzz2jxzaXxss

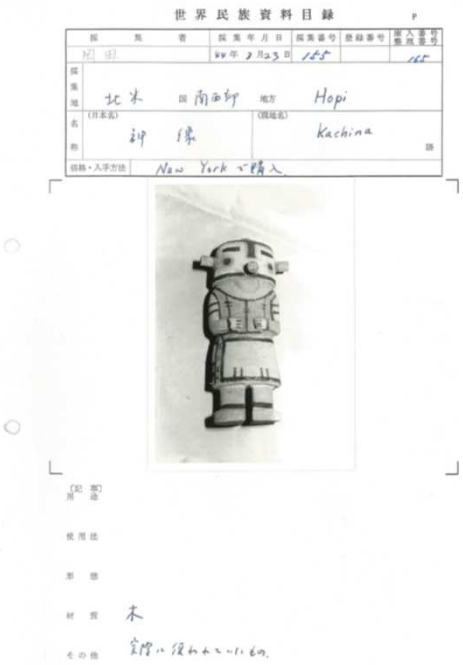
http://lencredesfees.canalblog.com/archives/2012/09/09/25069465.html

アンドレ・ブルトン
（1896-1966）
仏 シュルレアリスト

マックス・エルンスト
（1891-1976）
独 シュルレアリスト

http://mondo-blogo.blogspot.com/2012/03/my-man-max.html

消火器
FIRE EXTINGUISHER



世界民族資料目録

採集者	採集年月日	採集番号	登録番号	第入番号 整理番号
松田	88年3月23日	155		155

採集地: 北米 国 南西部 地方 Hopi

名称 (日本名): 神像 (現地名): Kachina 語

領収・入手方法: New York で購入

[記載] 用途

使用法

形態

材質: 木

その他: 彩色は使われていない。

ラムソン・ロマテワイマ

「先ほど熟覧した人形です。話し合いの結果、スウィインカチーナもしくは、パングゥと呼ばれるシカのカチーナやオオツノヒツジのカチーナに非常によく似ているという意見で一致しました。非常に古い人形です。第一印象は、ウィルソン・タワクァプテワさんが1900年代初頭に制作した人形によく似ている、というものでした。その後も熟考しましたが、彼がこの人形の制作者であるといって差し支えないでしょう。しかし記録は残っていません。人形の来歴は、アリゾナ州ツーソンの、バティ・インディアン・アート・ギャラリーです。この人形の顔面はカチーナを描写したものとすぐに分かるのですが、タワクァプテワさんの作風はさまざまな要素を混在させるので、それ自体で個別のカチーナを表さず、独特の姿をしています。ここそこで描写を故意に変えています。ここには羽根が付いていたのでしょう。素材はコットンウッドの根です。頭頂と後頭部には紐の残余物があります。非常に古い人形です。タワクァプテワさんが制作した人形だと思います。」

ベンドリュー・アトクク

「この人形について色々話し合いました。制作年代は20世紀半ばか初頭だと思います。顔面の特徴から判断して、ソウィングァ(シカ)もしくはチィービュゥ(アンテロープ)ではないでしょうか。両方ともこの人形と同じように顔面を塗ります。これは花を表しています。パラカルモングァが付いています。そして両耳の花からワシの羽根が飛び出ます。これがソウィングァだとしたら、頭頂にシカの角が生えているはずです。もしチィービュゥならば、アンテロープの尖った角がここに生えています。しかし身体のペイントはこの人形とは全く異なります。作者は本来の外見と全く違うように作っています。身体のペイントについて解説することはできません。シカやアンテロープのカチーナだったら、シカだったら白いシャツを着て青い腕章を着けます。チィービュゥなら、シャツは着ないこともあります。身体のペイントは青く、稲妻の模様が描かれます。この人形は男性用の腰布を巻き、クウェワとムツァフムンクウェワを締めています。それらは退色が進んでいますが、黒く塗った輪郭部分はまだ確認できます。足は黄色く塗ってあります。黄色かったのだと思います。退色しているので確証は持てません。靴の縁が黒く塗ってあります。ホピトツィなのでしょう。シカかアンテロープのカチーナだとしたら、腰に巻く腰布がこれとは違うはずです。アトゥイかクァネルクァサを腰に巻きます。その場合にはクウェワもムツァフムンクウェワも締めません。その代わりに雨の飾り帯を腰の後ろに垂らします。足には白い脚絆を着け、膝に毛糸を結びます。ホピトツィを履き、ツァミミという茶色い房飾りを巻きます。後頭部はこのような白黒ではありません。上から下まで茶色で、雨雲の印が左右に描かれます。頭頂には綿糸を載せます。パツァーカラという虹のひさしがあるはずです。その縁には七面鳥の小さな羽根が結びつけられています。ジーコクニという二枚のワシの尾羽根があり、その真ん中にコンゴウインコの尾羽根が添えられます。後頭部にはワシの羽根の束もあります。ヌンワとかクァーツァクァと呼ばれます。身体のペイントについて詳細は分かりませんが、顔面はアンテロープやシカのカチーナの特徴が表れています。口は黒です。そこには小さな歯の模様が描かれているように見えますが、ずいぶん退色しています。先ほど申し上げたように、これはアンテロープかシカのカチーナを象った人形です。」

EEM 北米 165 (2:09) 再生･再現可能な映像収録

主な話題

- ･モチーフとなった精霊の呼称や衣装
- ･制作者の推定
- ･素材 (羽根、絵の具、材木)
- ･儀礼での役割

カルチャル・センシティビティへの配慮　Cultural Sensitivity (H83313　0:27)

English Japanese font size - + Login

RECONNECTING

Source Communities with Museum Collections

ソースコミュニティと博物館資料との「再会」

国立民族学博物館（民博）は、ソースコミュニティの人々（収蔵資料の制作者、使用者、その子孫）とともに資料熟覧を行い、資料情報の再収集と公開適正化を図る国際共同研究（フォーラム型情報ミュージアムプロジェクト）を進めています。2014年6月から2018年3月までに実施したプロジェクト「北米先住民製民族誌資料の文化人類学的ドキュメンテーションと共有」では、日本、米国、英国の14の博物館の収蔵品と個人所有物の合計約2,200点の米国南西部先住民「ホピ製」資料を対象としました。
本サイトでは、プロジェクトの成果をソースコミュニティ、博物館、研究者、一般の方々に広くご利用いただけるように、さまざまなコンテンツ（熟覧調査時に提供された収蔵機関による資料情報、新規に撮影した資料画像、ソースコミュニティによる解説映像、そのテキスト全文と要約、調査時のメモ、一部ではphotoVRデータなど）をデジタル化して、公開・提供しています（※収蔵機関ごとに随時追加する予定です）。

お知らせ
2018年1月31日、国立民族学博物館収蔵281点の「ホピ製」木彫人形資料データを加えました。
2018年3月31日、天理大学附属天理参考館収蔵24点の「ホピ製」資料データを加えました。

熟覧調査記録
Past RECONNECTIONS

ソースコミュニティの熟覧者から記録を検索します

資料データベース
For Future RECONNECTION

収蔵機関や制作者から資料を検索します

このサイトについて ›

© 2018- National Museum of Ethnology, Japan

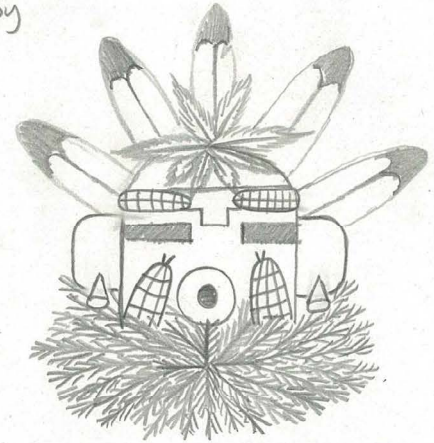
© 2018- National Museum of Ethnology, Japan

RECONNECTING
Source Communities with Museum Collections
English
Japanese
font size
Login
Top
Collections Review
search results
SER140/143/H74833
Chapter:
Personal comment
General statement
Reviewer(s):
Merle Namoki
Ramson Lomatewama
Bendrew Atokuku
アヒルかフィンチかもしれません
保留地に生息する鳥の羽根でしょう
2:16 / 6:58
Summary
Review date: 2015/04/13
The documentation says it is a "Kachina Doll" but it looks like a Navajo clown and it does not represent a katsina. The Navajo raise sheep and show this by, for example, attaching sheep ribs to their body or coming with mutton meat hanging on a cord. The carver is Neil David, Sr. born in the First Mesa. He and four other artists created a group called "Artist Hopid" in the 1960s and 1970s. They started to carve dolls based on the Hopi tradition. When we draw the hair away from its forehead, we see an open mouth and with no teeth in it. It is only visible to those who can hold the doll in their hands and only those who draw the hair away can notice this detail. Generally, the more experience somebody has in making sculptures, the more precisely and realistically they want to carve them but, at the same time, it increases the risk of their being damaged.
General Statement
360°
ROTATE MODE
ROTATE
MOVE

Inventory No / 標本番号	H115082
Basic info on Minpaku catalog (partial) / 民博資料情報(部分)	
Object Name / 標本名	Kachina Doll / カチーナ人形
Local Name/ 現地名	Corn Boy Kachina
Carver Name / 制作者名	不明
Time of Manufacturing / 製作年代	1970-1975
Date of Coll. / 収集年月日	1984.02.23
Collector Name / 収集者	Yohinobu KOTANI
Location / 収集地	confirmed U.S.A. Arizona Tucson
Materials / 材質	
Collection History / 入手状況	Purchased from Tepopa Truding Co. Tepopa Truding Co.より購入。
Bottom Surface Research / 底面記載内容調査	
Carver Name / 制作者名	——
Object Name by Carver/ 作品名	——
Carver info / 制作者情報	
Collton No / コルトン番号	

Reviewer's Comments

3rd mesa
Version of Corn Boy



収蔵機関

国立民族学博物館（民博）

天理大学附属天理参考館

野外民族博物館リトルワールド

福山市松永はきもの資料館 あしあとスクエア

北アリゾナ博物館

デンバー美術館

デンバー自然科学博物館

コロラド州歴史協会

国立アメリカンインディアン博物館

スコットランド国立博物館

ポートランド美術館

ニューメキシコ州立大学附属博物館

ジェロニモ・スプリングス博物館

国立自然史博物館

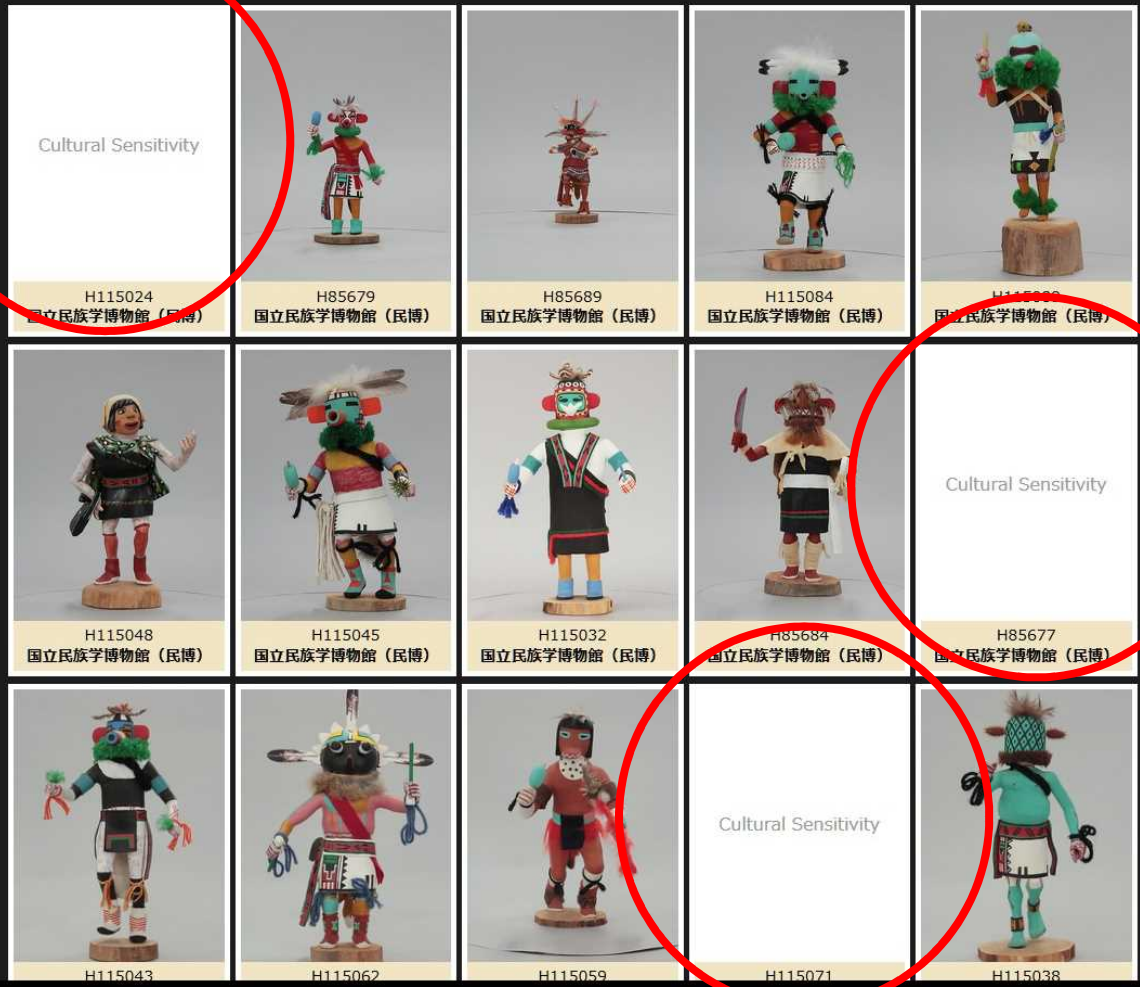
© 2018- National Museum of Ethnology, Japan

収蔵機関
国立民族学博物館（民博）

表示を資料番号順（小→大）に変更する

1 2 3 4 5 6 7 次へ > 最後へ >>

281件(1-20)



© 2018- National Museum of Ethnology, Japan

RECONNECTING
Source Communities with Museum Collections

English | Japanese | font size - + | Login

トップ > 熟覧資料情報検索 > 熟覧資料情報 検索結果一覧 > 国立民族学博物館（民博） H83338

国立民族学博物館（民博） H83338

Cultural Sensitivity

熟覧調査で得られた情報

制作者
ドゥーイ・タカラ

第一メサ
——

第二メサ
ウィハージュ

第三メサ
不詳

2013年までに実施した底面記載内容調査で判明した情報

制作者名
DEWEY TAKALA

作品名
——

資料熟覧以前の資料情報（部分）

熟覧調査記録

熟覧者：

熟覧年月日： 2014/10/14
収蔵機関： 国立民族学博物館（民博）

© 2018- National Museum of Ethnology, Japan

Movie(s):

Comments

General Statement

Reviewer(s):

Gerald Lomaventema

Darance Chimerica

Merle Namoki

Request for deletion

熟覧者の要望により省略しました

video

audio

誰か特定の人物の所有物ではなく
共有財産なのです

5:51 / 6:44

Summary by project leader

Reviewed Date: 2014/10/14

Its local name is *Wiharu*. It is registered in the documentation under the name of Wiharu Kachina but the word "Kachina" should not be attached at the end. This *katsina* resembles more *Tsaaveyo* than *Wiharu*. There were comments concerning the tool used for the ceremony (saber) in *Songòopavi*. It appears together with *Sa'yeko*. Its role is to discipline children and punish adults who do not follow the Hopi way of life. It

General Statement

Gerald:

This *katsina* doll, the way it's mentioned in the catalog there, we don't really distinguish this... we don't really categorize it as being a *katsina*, because of its special functions that it holds. It holds a special... it has a special meaning to us because it teaches children obedience, even as well as the adults. It's like a... like Christians repent their sins but we repent or sins to these figures here. And that's how we were able to go on as Hopis, if we admit our wrongs, and they know what we did wrong. So they go to household, to household. Each individual has to face these ogres. This one is called... there is a pair of them. There is a

360°

Cultural Sensitivity

Remarks from the Reconnection

Artist
Dewey Takala

First Mesa
——

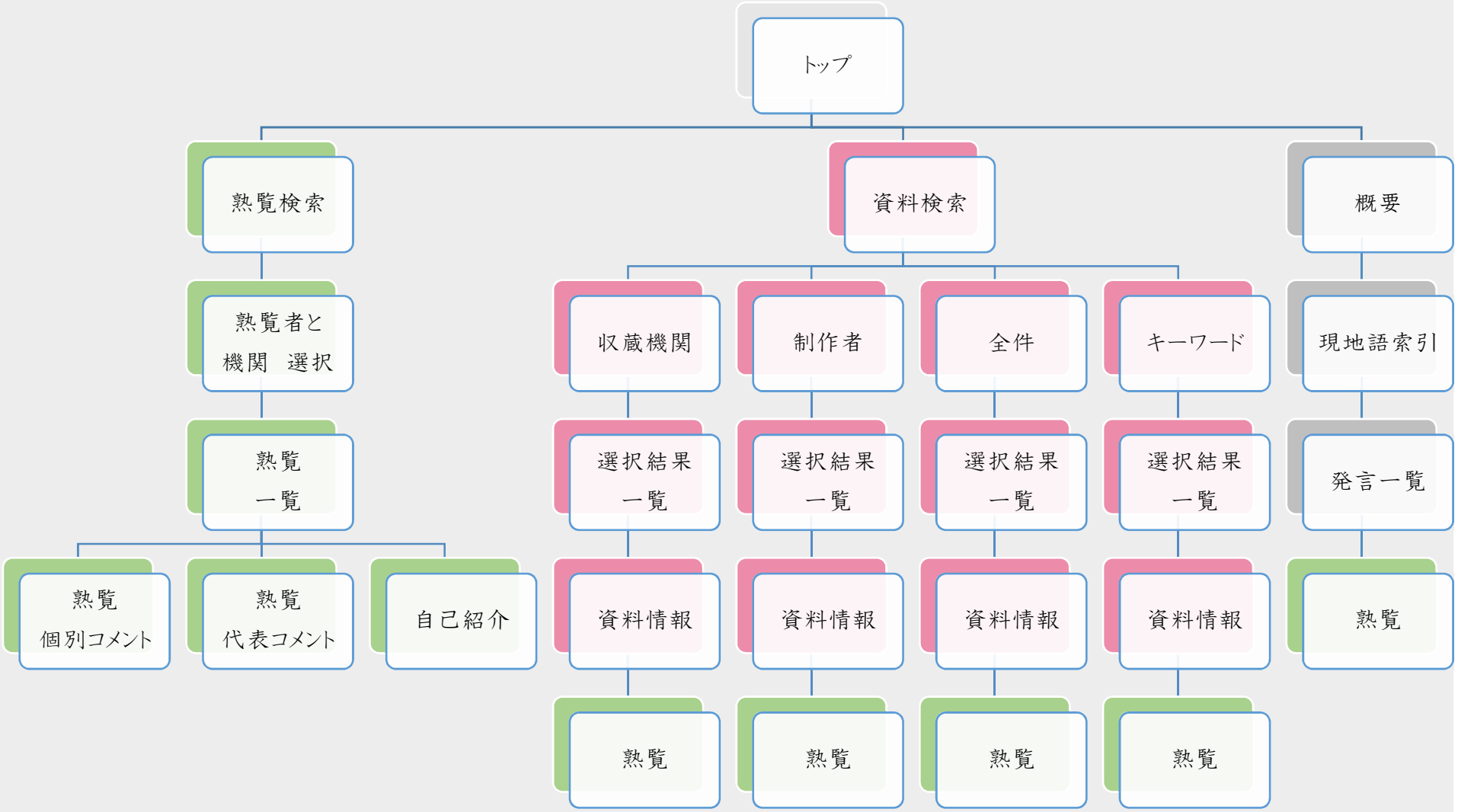
Second Mesa
Wiharu

Third Mesa
unknown

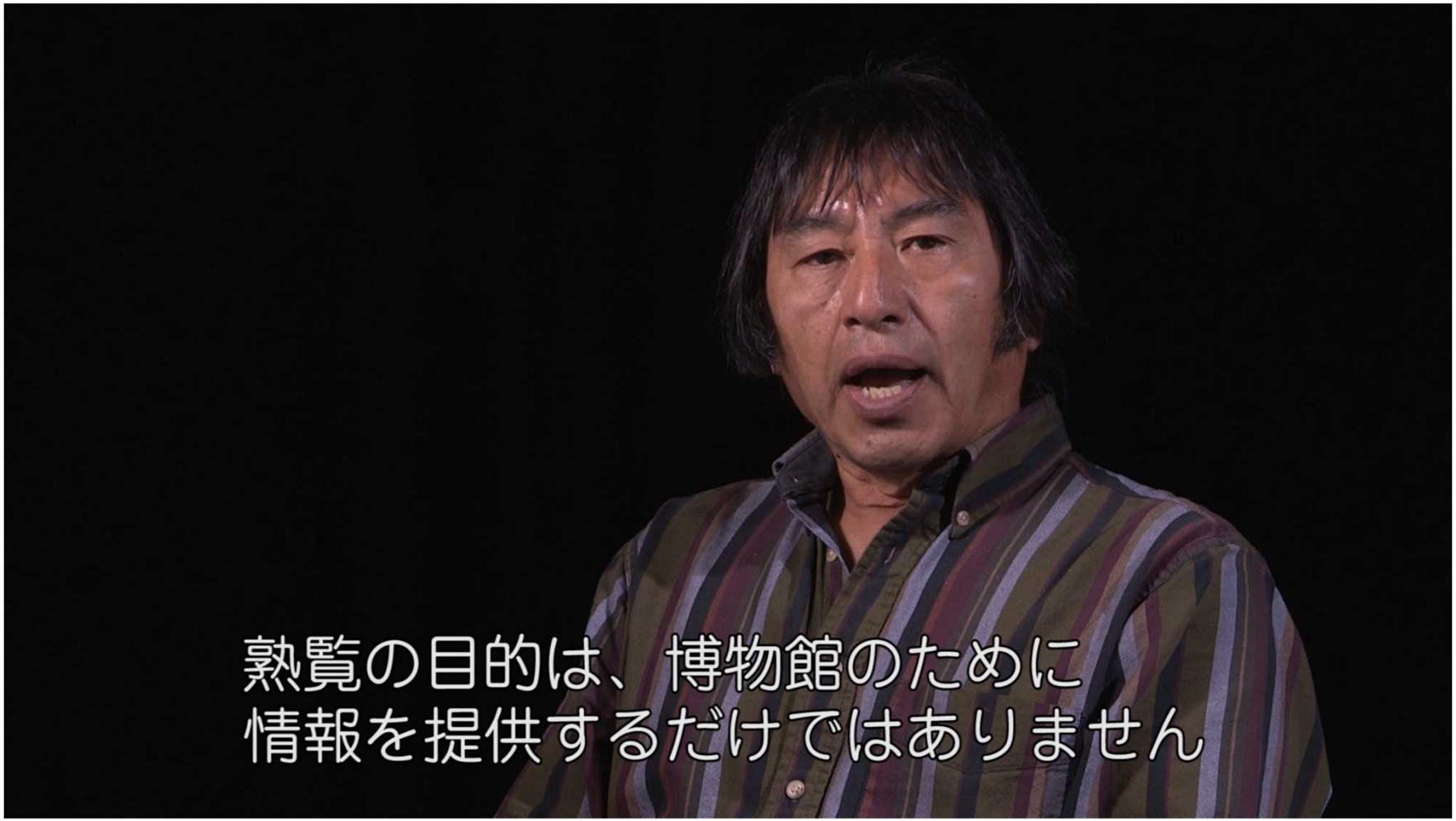
Bottom Surface Research (-2013)

Carver
DEWEY TAKALA

© 2018- National Museum of Ethnology, Japan


トップ
熟覧検索
資料検索
概要
熟覧者と
機関　選択
収蔵機関
制作者
全件
キーワード
現地語索引
熟覧
一覧
選択結果
一覧
選択結果
一覧
選択結果
一覧
選択結果
一覧
発言一覧
熟覧
個別コメント
熟覧
代表コメント
自己紹介
資料情報
資料情報
資料情報
資料情報
熟覧
熟覧
熟覧
熟覧
熟覧

代替不可能な記憶の記録をソースコミュニティが望むやり方での継承に努める（協働）
(00:39)



「再会」プロジェクトで構築したプロダクト

「民族誌資料に関する、

ソースコミュニティの意思を尊重し、反映した、

映像による語りを中心とすることで、

彼らの記憶の継承を念頭に置いた、

協働民族誌という性格を持つ、

デジタルアーカイブ」

利用許諾の取得

☑ 熟覧者から書面で取得
（原紙は2部作成、1部は本人、もう1部は民博が保管）

☐ 熟覧対象となった民族誌資料（国外著作物）の制作者・著作権者
一部未取得（全資料の制作者・著作権者と「再会」できたわけではない）

「再会」プロジェクトの貢献

ソースコミュニティとの「再会」により民族誌資料の文化的生命力の「蘇生」という意味での追加情報収集が可能なことを、具体的な方法と共に明らかにしたこと。

デジタルアーカイブ化することで「再会」の記録を再現・再生可能な状態にしたこと。

ソースコミュニティが望む文化的に安全な方法での資料と資料情報の継承を実現しつつあること（著作権への配慮だけでなく文化的側面への配慮も必要）。

民具（無銘性を特徴）と同等視されてきた民族誌資料に、著作物性という視点を加えたこと。それによって、創作者の個性や意思や法的・文化的側面に配慮した資料と資料情報の継承が不可欠だという意識を収蔵機関職員に芽生えさせることができたこと。

「再会」は孤児著作物化の回避のための一つの有効な情報収集手段となりうることを明らかにしたこと。

民族学博物館の可能性や将来像の一例を示すことができたこと。
（資料から過去を学ぶ機関
→同時代の人びとを繋ぎ、多様な記憶や価値観を未来に継承する機関）

課題と展望

無銘性を特徴とする民具から著作物としての民族誌資料へと前提を転換させたことによって、所有者の裁量による資料画像の複製やその公衆送信ができなくなった。

著作物性の有無の基準の設置、仕分け、著作権者探し、利用許諾の取得交渉といった作業は継続中。

利用許諾を取得でき、デジタルアーカイブが構築しても、ソースコミュニティによる遠隔地利用や伝統復興のための教育利用は、現地のインターネット環境に左右される。

↓

それでもなお、文化的・法的側面の双方においてソースコミュニティに配慮し続けることは民族学博物館にとって重要なポリシーの表明の場となる。その姿勢を貫くことが異文化理解と多文化共生の大切さを伝えることに他ならないためである。
ソースコミュニティとのデータ共有という技術的な側面に基づく困難さは大きな問題ではなく、他の方法で十分代用がきく。例えば公衆送信が必要ない状態で作動するデータを格納したスタンドアローンの機器を地元に提供する方法などである。

参照文献

伊藤敦規
2015「再会ツールとしての著作権――国立民族学博物館所蔵カナダ先住民版画資料の著作権処理を事例として」齋藤玲子(編)『カナダ先住民芸術の歴史的展開と現代的課題――国立民族学博物館所蔵のイヌイットおよび北西海岸先住民の版画コレクションをとおして』(『国立民族学博物館調査報告SER』131:211-227、国立民族学博物館。

伊藤敦規監修(データベース)
2018『RECONNECTING Source Communities with Museum Collections ソースコミュニティと博物館資料との「再会」』、国立民族学博物館(館内公開)。
http://ifm.minpaku.ac.jp/hopi/

梅棹忠夫
1987『メディアとしての博物館』平凡社。

小谷凱宣
2003「博物館標本資料と基本的学術情報――海外アイヌ資料調査二〇年の教訓」瀬川昌久(編)『文化のディスプレイ――東北アジア諸社会における博物館、観光、そして民族文化の再編』、pp. 19-47. 風響社。

吉田憲司
1999『文化の「発見」』岩波書店。